

# 景気景況調査報告

(第17回)

令和2年 1～3月期 実績

令和2年 4～6月期 見通し

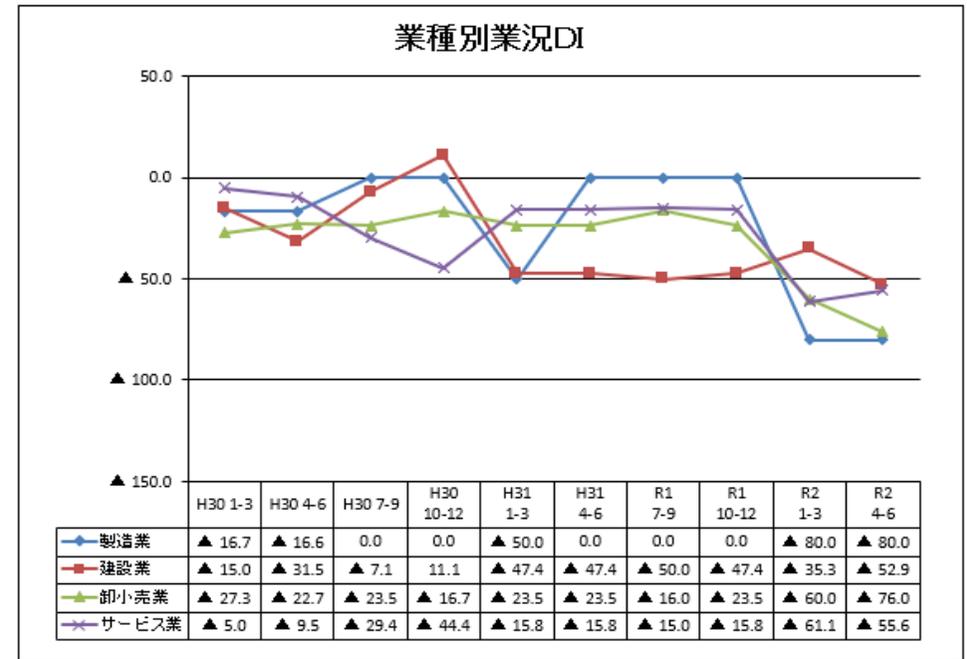
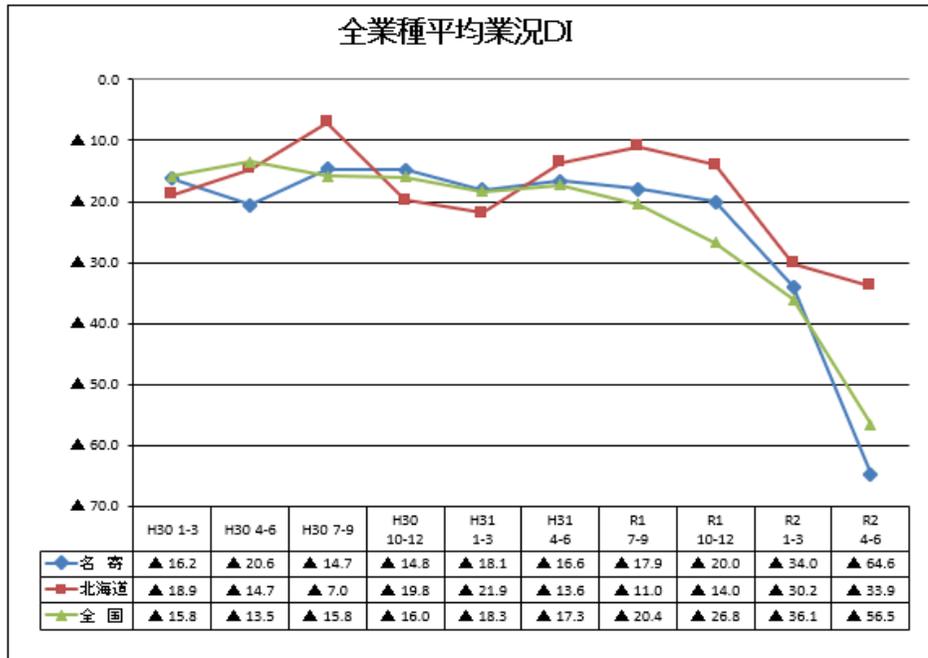
令和2年5月

名寄商工会議所

## I 調査要領

- ①調査対象期間 令和2年1～3月期の実績及び令和2年4～6月期の見通し
- ②調査内容 製造業、建設業、卸小売業、サービス業の4業種に分類し、売上高、採算、仕入、従業員、業況、資金繰りの6項目について調査を実施。
- ③調査対象 当所会員企業（FAXで協力願い） 65社

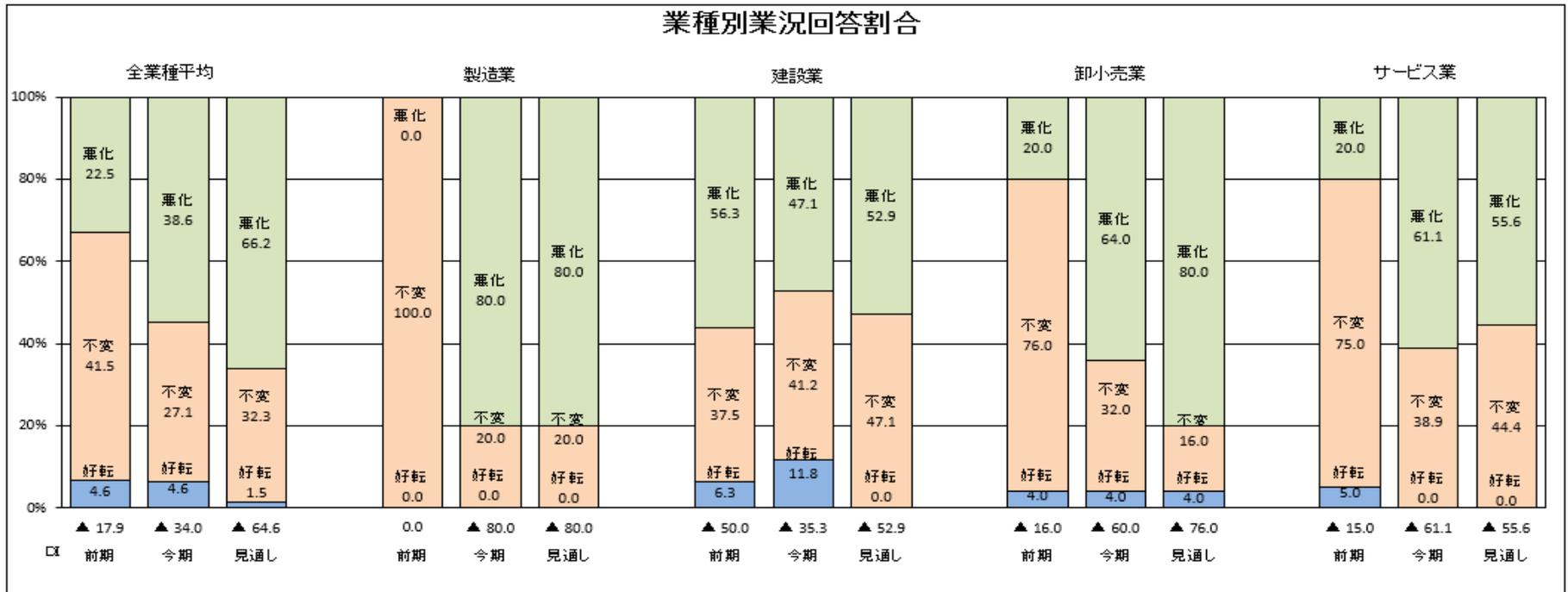
## II 調査結果



### ※DI：「好転」の回答企業と「悪化」の回答企業の差

- ・今期、全業種平均で▲34.0ポイントと前回調査と比べ14.0ポイント悪化となっている。
- ・北海道（道商連調査）の景気と比較すると、今期▲3.8ポイント悪く、見通しでは更に▲30.6ポイント悪化し、64.6ポイントノ見込みとなっている。
- ・全国（日商調査）の景気と比較しても、今期2.1ポイント良いが、見通しでは▲8.1ポイントマイナス幅が拡大する見込みとなっている。
- ・見通しでマイナス幅が拡大しており、新型コロナウイルスの影響による要因が大きく、その他、若手不足・降雪量の少なさ・工事の減少との回答が多数あり。
- ・業種別の見通しでは、製造業は横ばいとなっていますが、建設業、卸小売業では悪化の傾向となっております。

## 業種別業況回答割合

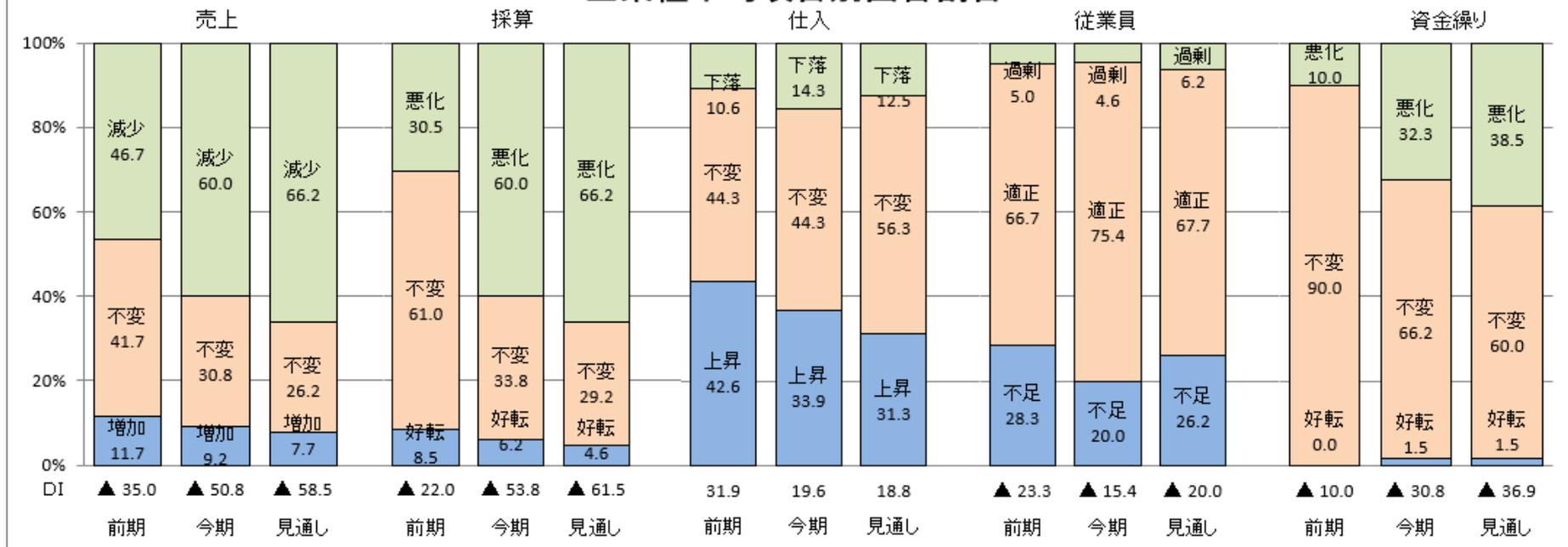


### ※D I : 「好転」の回答企業と「悪化」の回答企業の差

- 製造業～ 今期は前期に比べ、「悪化」が80%となり、前期と同じに「好転」の回答がなくなった見通しでも今期と同じで好転が見込めない状況となっている。
- 建設業～ 今期は前期に比べ、「悪化」が9.2%良くなったが、見通しでは「悪化」が5.8%と増加している。また、「好転」の回答がなくなっている。
- 卸小売業～ 今期は前期に比べ、「悪化」が44.0%増加しており、見通しでは「好転」が横ばいとなり、「悪化」では16.0%増加となっており、さらに厳しい状況となっている。
- サービス業～ 今期は前期に比べ、「悪化」が41.1%と大幅に増加しており、「好転」の回答がなくなった。見通しでも「好転」の回答がなく厳しい状況となっている。

全業種平均では、今期は前期より「悪化」16.1%増加。見通しでも「悪化」27.6%増加となっており、「好転」回答が3.1%減少しているため、さらに悪化する見通しとなっている。

## 全業種平均項目別回答割合



**売上 DI** 今期▲50.8ポイントと前期より15.8ポイント減少となっている。見通しでは▲7.7ポイントマイナス幅となっている。  
 [減少の要因] ・新型コロナウイルスの影響 ・工事の減少 ・降雪量の少なさ

**採算 DI** 今期▲53.8ポイントと前期より31.8ポイント減少となっている。見通しでは▲7.7ポイントマイナス幅となっている。  
 [悪化の要因] ・新型コロナウイルスの影響 ・降雪量の少なさ

**仕入 DI** 今期19.6ポイントと前期より12.3ポイント減少。見通しでは▲0.8ポイントマイナス幅となっている。  
 [下落の要因] ・原材料の高値水準 ・消費税増税 ・工事の減少

**従業員 DI** 今期▲15.4ポイントと前期よりも7.9ポイントマイナス幅が減少となっている。見通しでは04.6ポイント増加となっている。  
 [不足の要因] ・少子高齢化 ・若手不足

**資金繰り DI** 今期▲30.8ポイントと前期から▲20.8ポイント減少。見通しでは▲6.2ポイントマイナス幅となっているため厳しい状況。